

病院報告の概況

(1) 在院患者延数

令和5年中の京都市内の病院における在院患者延数は5,125,557人で、前年に比べ17,133人（0.3％）減少した。年次推移をみると、昭和45年以降増加を続けていた在院患者延数は、平成元年をピークに増加・減少を繰り返している。なお、全国では前年より0.2％の減少となっている。

病床の種類別では、精神病床が1.1％微増、結核病床が1378.5％増加、その他の病床が0.5％微増する一方、新型コロナウイルス感染症の終息により感染症病床は73.7％減少した（図1－1）（図1－2）。

※ 新型コロナウイルス感染症患者については、感染症病床以外の病床に入院していたとしても、「感染症病床」の患者として計上している。（令和2年9月4日厚生労働省事務連絡）

図1－1 一日平均在院患者数(人口10万対)の年次推移
(精神、結核、その他)

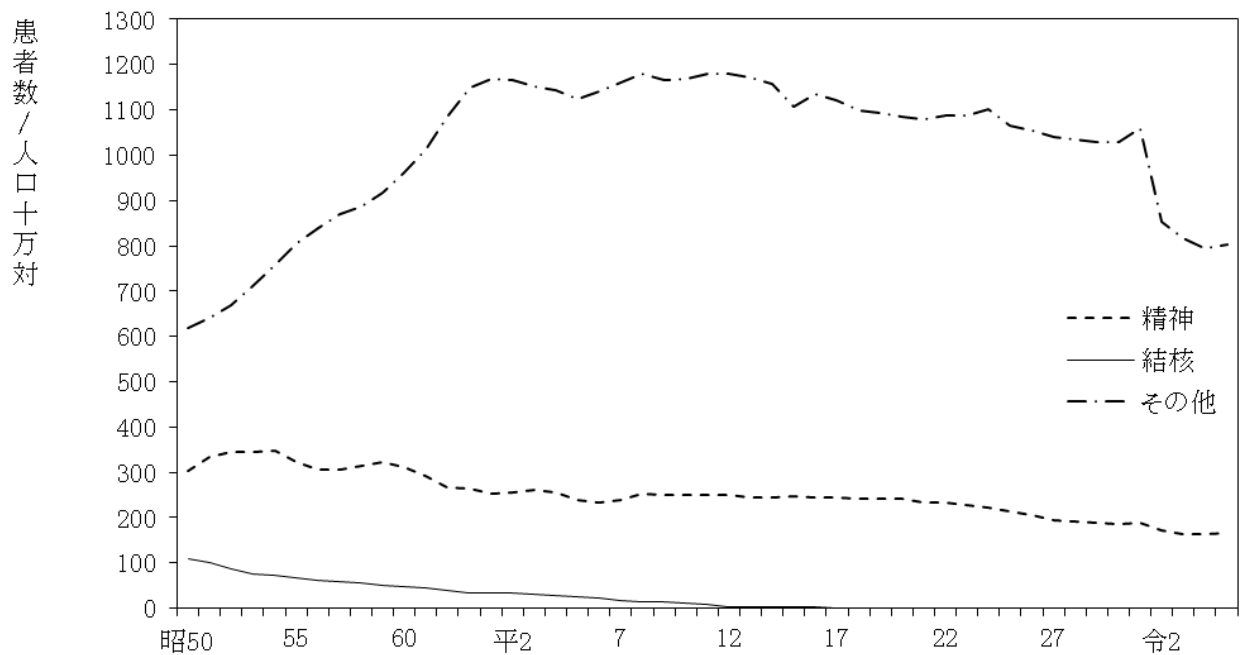
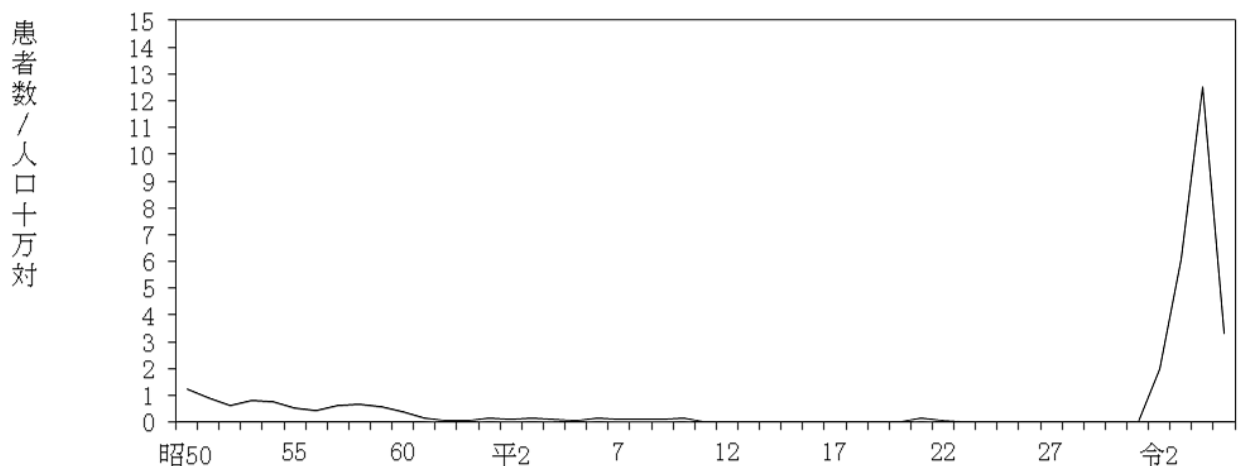


図1－2 一日平均在院患者数(人口10万対)の年次推移
(感染症)



(2) 新入院・退院患者数

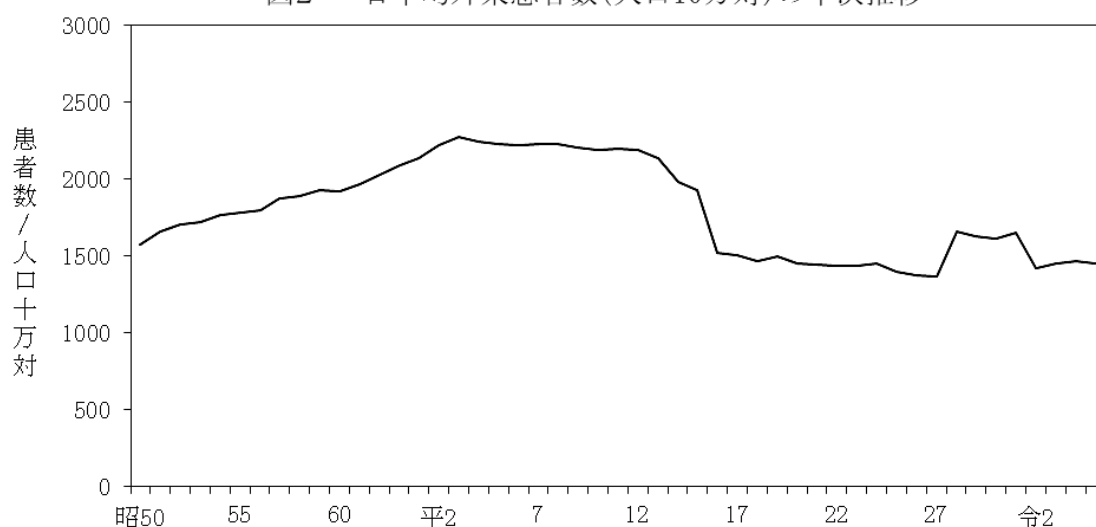
令和5年中の京都市内の病院における新入院患者数は226,304人で、前年より5.1%増加（全国3.6%増加）した。また、退院患者数は226,080人で、前年より4.9%増加（全国3.4%増加）した。

一日平均では、新入院患者数が620人、退院患者数が619人であった。

(3) 外来患者数

令和5年中の京都市内の病院における外来患者数は6,212,882人（一日平均17,022人）で、前年より1.5%減少（全国1.9%減少）している（図2）。

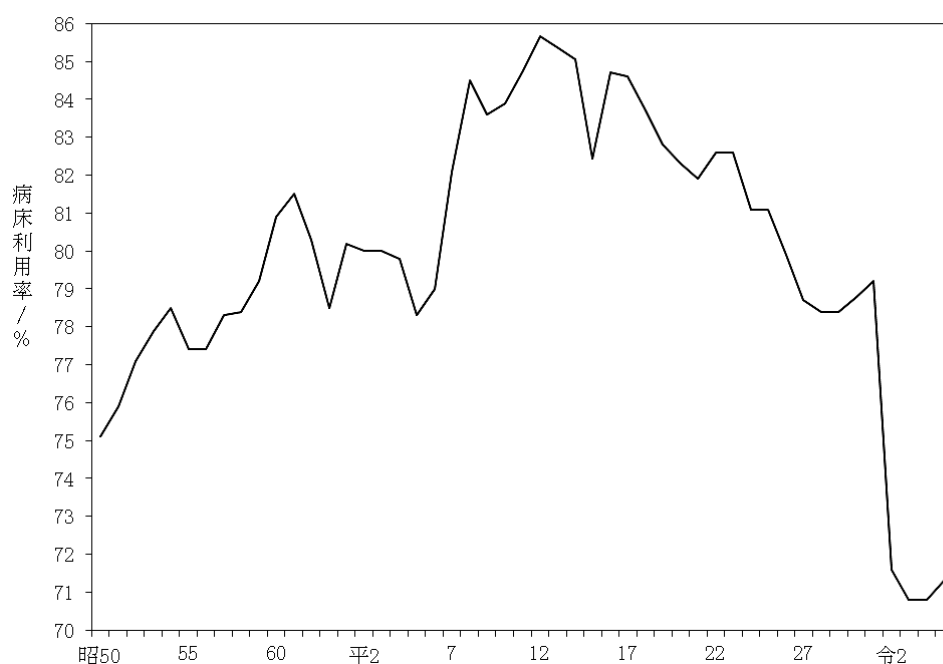
図2 一日平均外来患者数(人口10万対)の年次推移



(4) 病床利用率

令和5年中の京都市内の病院における病床利用率は71.3%（全国75.6%）で、前年と0.5%の増加（全国0.4%増加）であった（図3）。

図3 病床利用率の年次推移



病床の種類別では、前年に比べて精神病床は2.2％増加し、結核病床は3.0％増加、感染症病床は1,668.3％減少し、その他の病床は0.9％増加した（図4－1）（図4－2）。

図4－1 病床種類別病床利用率の年次推移
（精神病床、結核病床、その他病床）

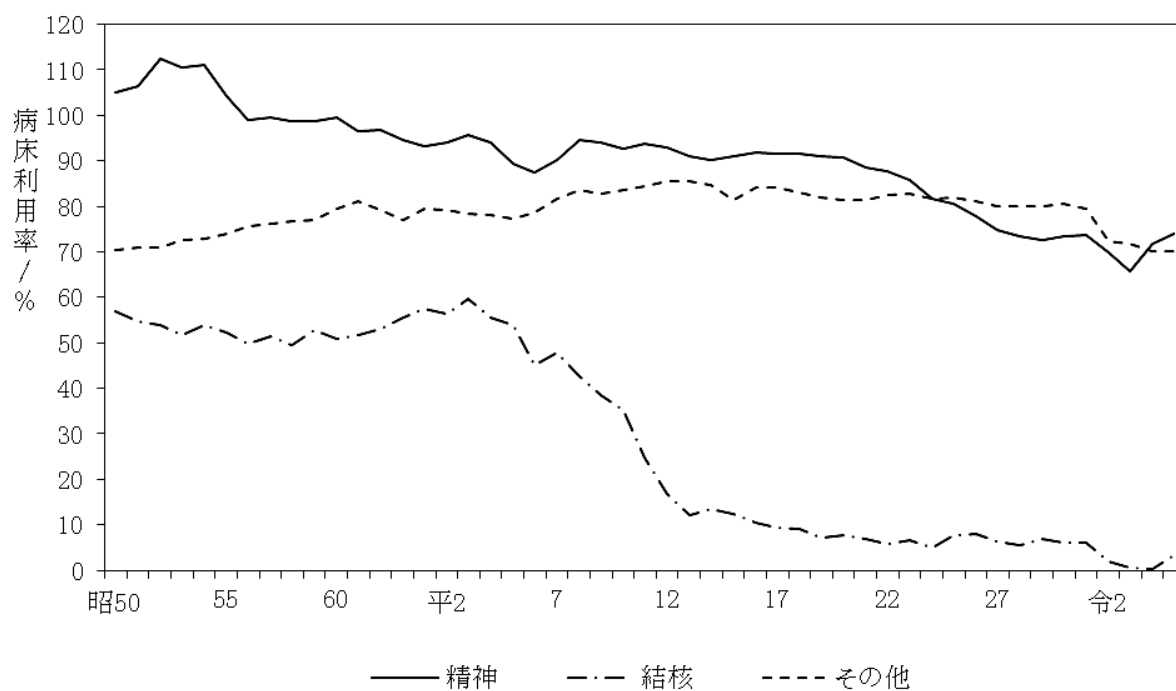
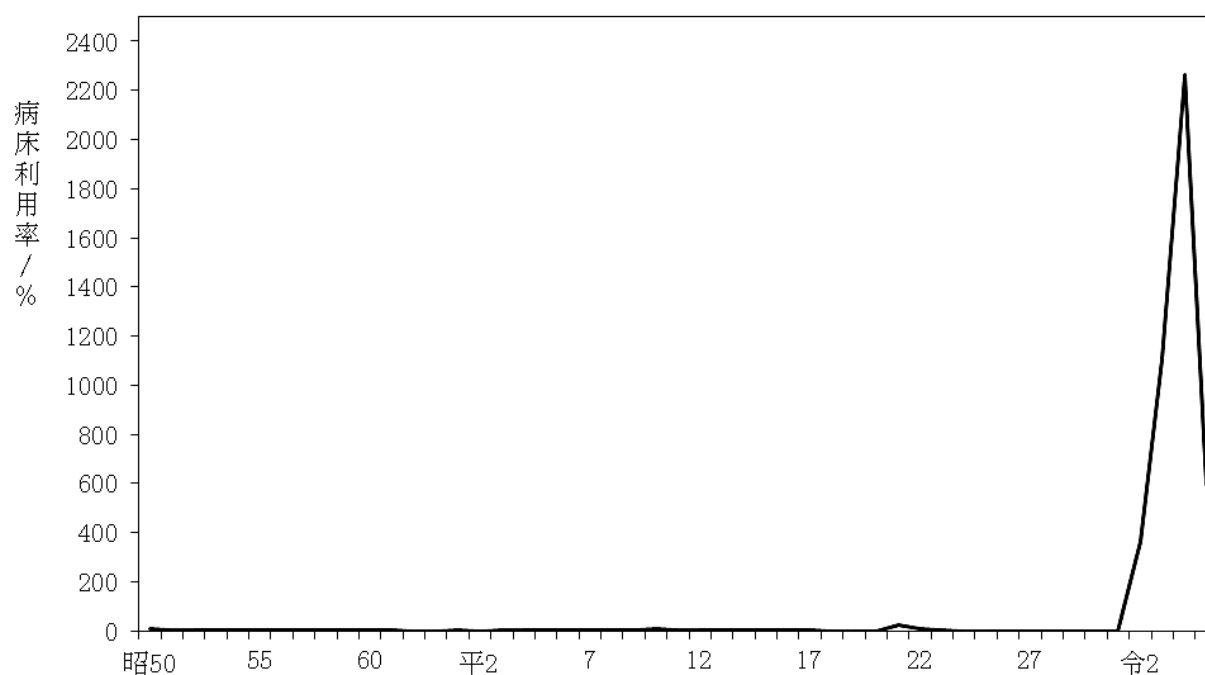


図4－2 病床種類別病床利用率の年次推移(感染症病床)



(5) 平均在院日数

令和5年中の京都市内の病院における平均在院日数は22.7日（全国26.3日）で、前年より1.2日短くなっている。年次推移では、平成元年までは長くなる傾向にあったが、平成2年以降は、短くなる傾向にある。（図5）。

病床の種類別では、精神病床が279.4日（全国263.2日）、結核病床が13.0日（全国42.1日）、感染症病床が20.3日（全国13.3日）となっている（図6）。

図5 平均在院日数の年次推移

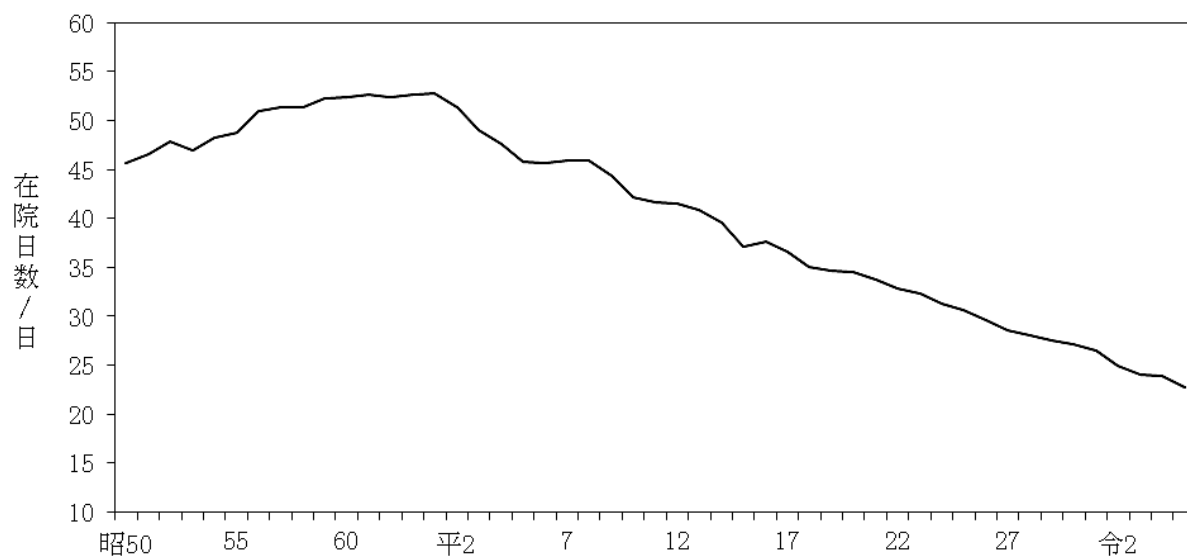


図6 病床種類別平均在院日数の年次推移

